

災害時のトイレを考える

トイレは我慢できない
我慢できても、トイレは我慢できない



災害時トイレ対策 待ったなし！

6 安全な水とトイレ
を世界中に



避難所では TKB (トイレ・キッチン・ベッド) と言われ、トイレ対策は最優先課題です。現場で起きる問題には現物で対処するしかありません。きっかけは 2016 年、サレジアン国際学園世田谷中学高等学校（旧目黒星美学園中学高等学校）の生徒による「女子校生と学ぶ防災対策勉強会」への参加でした。災害時のトイレ対策に関する熱心なプレゼンに触れ、これは喫緊の課題だと感じました。

法人格砧町自治会では携帯トイレの材料入手し、会員向けにサンプルを作成。「安心・安全・安定・安価」の観点から「安心トイレ」と名付け、普及活動に取り組みました。防災訓練や講習会、砧公園の「防災フェスタ」などで重要性を伝え、市販の携帯トイレ約 40 種類も収集。その結果、構成要素は黒い袋、凝固剤、防臭袋に集約されると分かりました。訓練では凝固剤の実験や、カレー粉や銀杏を使った防臭袋の効果体験も行いました。「携帯トイレは〇〇個備えましょう」だけでは不十分で、外出時・避難所・在宅避難など場面ごとに備えを考える必要があります。

在宅避難で 1 日 7 回排泄すると仮定し、4 人家族で 1 週間トイレが使えない場合、約 200 個の携帯トイレが必要になります。費用も収納も膨大です。そこで内容物を理解し、材料を別々に準備する方法を考え、「アートトイレ」を発案しました。携帯トイレの 3 要素を袋に入れ、折り紙やシールで装飾し、自宅のトイレに飾ることで、日頃から備えを意識してもらう狙いです。

地震、豪雨、排水管損傷による道路陥没、富士山噴火の降灰など、トイレが使えなくなるリスクは高まっています。食物は分け合えても、排泄は個人で解決するしかありません。SDGs の目標にも「安全な水とトイレを世界中に」が掲げられています。災害時に排泄物が適切に処理されないと、免疫力の弱い人、特に子どもは感染症の危険にさらされます。「災害時にも快適なトイレを！」を目標に、今後も市民目線で災害時のトイレ対策に取り組んでいくつもりです。

やってみよう！凝固剤実験／

使うもの



色水と凝固剤を合わせて
混ぜ合わせると…



【お小水に見立てた色水】と【凝固剤】



素早く凝固！
「携帯トイレの肝は、
凝固剤にあり」
ということがよくわかりました

←防災フェスタ2025in 砧公園で「災害時トイレ対策」ブースを開設しました

アートトイレには、
・凝固剤
・黒い袋
・臭断袋が入っています

砧のあれこれ⑥

大蔵運動公園の防空壕

大蔵運動公園を一回り散歩した時のこと、若い頃テニス大会でお世話になった懐かしいテニスコートの一番西にある 12 番コートの南端（北側・砧あそびの杜プレーパーク）でふと看板が目にとまりました。



タイトルは、「戦争の記憶～大蔵運動公園の防空壕」。内容は、「空襲の危険性が高まった昭和 19 (1944) 年、第二陸軍病院大蔵分院（現在の国立成育医療研究センター）に近かったこの場所に、東京都は防空壕をつくることにしました。（中略）この看板の後ろの斜面の 3か所から堀りはじめ、枝分かれや合流しながら、1 本の横穴を陸軍病院までつなげました。（中略）防空壕は、大いに活躍し、空襲警報が出るたびに、陸軍病院の患者や看護婦の避難に活用されました。【参考文献】『砧公園』（財）東京都公園協会（一部抜粋）と書いてあります。

この看板を観て、びっくり。参考文献の「砧公園」の著者は、砧 1 丁目に住まわれていた石内展行氏です。以前砧町町長の長島日出男さんからこの本を紹介され、この防空壕の箇所はチェックした箇所がありました。いま、戦後 80 年が経ち、防空壕は埋め戻されましたが、戦争の記憶を後世に残すと共に将来の平和を願って、この地に看板として設置されたとのこと。砧の住民として、地元先人の記憶を長く伝え合っていきたいと見つめ直しました。



よく見れば なずな花さく 壁根かな
芭蕉

↑看板付近から成育医療研究センターを望む



「砧散歩」いいですね。

砧の散歩人 竹内秀雄



工事前の防空壕の内部様子



防空壕のイメージ

＼事務局からお知らせ／

新「ひびきちゃん」に
なりました！

これまでの
デザインの
変遷



↑初代「ひびきちゃん」



より見やすく、表現
の幅を広げるため、
今回からデジタル化
しました。

15号発行時(平成3年7月17日)にミニコミ紙の
名称が、「きぬた5(ファイブ)」から「砧のひびき」
に変更しました。
それに伴い、マスコット人形の名称が、「だいごち
やん」から「ひびきちゃん」に変更となりました。

28号発行時(平成7年9月20日)に
「ひびきちゃん」のデザインが変更さ
れ、今まで二代目「ひびきちゃん」が
用いられてきました。



生活の中でお困りのことがあれば、
砧まちづくりセンター、砧あんしんすこやかセンター、社会福祉協議会(砧地区事務局)へ。
全て同じ建物内にあります。TEL 157-0073 世田谷区砧5-8-18

砧まちづくりセンター

TEL 03-3417-3405 FAX 03-5494-7016

砧あんしんすこやかセンター

TEL 03-3416-3217 FAX 03-3416-3250

社会福祉協議会砧地区事務局

TEL 080-9418-7736 FAX 03-4330-1226



「砧のひびき」は世田谷区のホームページでもご覧になれます。
※掲載内容の概要は音声読み上げにも対応しています。

砧のひびき

検索